

# 九州病害虫研究会 第 99 回研究発表会 プログラム

2020 年 1 月 30 日 (木)

会場 菊南温泉ユウベルホテル

〒861-5517 熊本県熊本市北区鶴羽田 3 丁目 1 0-1

TEL:096-344-5600

## 発表会場および進行予定

虫害 講演 12 分 (1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分) 質疑 2 分 (終鈴 14 分)

病害 講演 12 分 (1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分) 質疑 2 分 (終鈴 14 分)

	虫害第 1 会場 本館2階 光の間A	虫害第 2 会場 本館2階 光の間B	病害会場 本館3階 ザ・テラスルーム
午前の部			
9:30 開始	虫害部会 No. 1 ~9	虫害部会 No. 19 ~27	病害部会 No. 1 ~9
昼休み			
※役員会 (本館2階 富士の間 12:00~13:15)			
総 会 (本館3階 ザ・テラスルーム 13:20~13:50)			
午後の部			
14:00 開始	虫害部会 No. 10 ~18	虫害部会 No. 28 ~32	病害部会 No. 10 ~14
懇 親 会 ( 本館2階 光の間B 17:30~)			

## 九州病害虫研究会

(The Association for Plant Protection of Kyushu)

HP <http://9byochu.sakura.ne.jp/main.html>

## 【講演にあたっての注意事項・その他】

1. 講演ファイルは必ず CD-ROM または DVD に書き込んでお持ち下さい。USB メモリは使用できませんのでご注意ください。パソコンは、予め会場に設置したものを 사용합니다。ご自身のパソコンは接続できませんのでご注意ください。
2. ファイル名は「‘虫害’ または ‘病害’ + 講演番号 (半角 2 ケタ) + 発表者名」として下さい。  
例 1 : 虫害会場 1 番の発表の場合 虫害 01 村田.pptx  
例 2 : 病害会場 25 番の発表の場合 病害 25 村田.ppt
3. スライド受付、インストールは虫害・病害各会場で行いますので、午前・午後の開始前までにファイルの入った CD-ROM または DVD を各会場のスライド受付担当にお渡し下さい。公演中は受け付けませんので、時間厳守でお願いします。
4. スライド映写用 PC の OS は Windows10 で、PowerPoint 2013 以降をインストールします。互換性の問題から図の配置や動画の再生環境が変更される可能性がありますので、スライド映写用 PC にインストール後に動作確認をお願いします。
5. 講演要旨は本会ホームページ内に掲載しておりますので印刷してご持参下さい。

## 【講演要旨の内容確認と再提出について】

第 99 回研究発表会の講演要旨は、九州病害虫研究会報第 66 巻に掲載されます。発表者は講演要旨の内容、誤字脱字等を再度確認して下さい。特に、下記の点について確認・修正をお願いします。規定等が守られていない場合には、演題のみの掲載とします。

講演要旨の訂正が必要となった場合には、研究会終了後に訂正した講演要旨を編集幹事に再提出して下さい。再提出は電子メール添付ファイルとし、締め切りを 2020 年 2 月 14 日(金)とします。

# 虫害会場 1

会場：菊南温泉ユウベルホテル（本館 2 階 光の間 A）

講演 12 分（1 鈴 10 分、2 鈴 12 分）、質疑 2 分（終鈴 14 分）

< 午前の部 >

9:30~11:45 ※9:25 事務連絡

講演番号/ 開始時間	タイトル
1 9:30	アスパラガスにおけるスワルバンカー®を組み合わせた総合的病害虫管理技術体系の検討 ○吉村友加里・永石久美子・高田裕司 (長崎農技セ)
2 9:45	諫早湾中央干拓地における捕食性天敵ゴミムシ類発生種の経年変化 ○高田裕司・古場直美・永石久美子・吉村友加里・寺本 健 (長崎農技セ)
3 10:00	八重山群島における害虫ミバエ類の根絶・侵入と関連したミバエ寄生蜂相（コマユバチ科）の変化 ○大野 豪・前藤 薫 <sup>1)</sup> ・本間 淳 <sup>2)</sup> (沖縄病害虫防除セ・ <sup>1)</sup> 神戸大院農・ <sup>2)</sup> 琉球産経（株）)
4 10:15	マメハモグリバエに寄生するハモグリヤドリタマバチの羽化当日の成熟卵数と体サイズの関係 ○鄔 亜嬌（ウー アキョウ）・阿部芳久 <sup>1)</sup> (九大院地球社会・ <sup>1)</sup> 九大院比文)
5 10:30	シロツノコナカイガラトビコバチ <i>Anagyrus subalbipes</i> のコナカイガラムシ類への寄主体液摂取行動を誘発する要因の探索 ○有川 駿・上野高敏 (九大院農)
6 10:45	福岡県西部におけるツマグロヨコバイ天敵卵寄生蜂の発生消長と構成種 ○楠原弘己・上野高敏 (九大院農)
7 11:00	タイリクヒメハナカメムシ幼虫における共食い回避機構 ○郡山勝太・上野高敏 (九大院農)
8 11:15	Effect of Alternative Food on Predator Thrips <i>Scolothrips takahashii</i> ○Pham Nguyen Anh Duy, Takatoshi Ueno (九大院農)
9 11:30	<i>Anagyrus subalbipes</i> の寄生率に寄主の交尾状態が与える影響 ○菅原有真・上野高敏 (九大院農)

----- 昼休み -----

役員会(本館 2 階 富士の間 12:00~13:15)  
総会(本館 3 階 ザ・テラスルーム 13:20~13:50)

<午後の部>

14:00～ 16:15

講演番号/ 開始時間	タイトル
10 14:00	<i>strigosa</i> エンバク「テララ」(系統名 KH1a) におけるネコブセンチュウの侵入と発育 ○上杉謙太・桂 真昭・上床修弘・村田 岳・岩渕 慶 <sup>1)</sup> (農研機構九州沖縄農研・ <sup>1)</sup> ホクレン)
11 14:15	施設サヤインゲン-ゴーヤの一貫生産体系における害虫管理技術の開発 1 作物 2 種の重要害虫に対して有効な防除技術は化学的防除か? 生物的防除か? ○柿元一樹・前之園稀望 <sup>1)</sup> ・安水義寿 <sup>2)</sup> ・池之上祐紀 <sup>2)</sup> ・堀田尚幸 <sup>3)</sup> (鹿児島農総セ・ <sup>1)</sup> 鹿児島県立農大・ <sup>2)</sup> 大隅地域振興局・ <sup>3)</sup> 垂水市役所)
12 14:30	施設サヤインゲン-ゴーヤの一貫生産体系における害虫管理技術の開発 2 サヤインゲンのカンザワハダニに対するカブリダニ類 2 種の生態情報に基づいた有効な生物的防除技術 ○前之園稀望・柿元一樹 <sup>1)</sup> (鹿児島県立農大・ <sup>1)</sup> 鹿児島農総セ)
13 14:45	露地ナス圃場に発生したクモ類によるハスモンヨトウ幼虫に対する攻撃性 ○遠山実桜・津田勝男・坂巻祥孝 (鹿児島大農)
14 15:00	露地ナス圃場におけるミツユビナミハダニと天敵としてのヒメハナカメムシ ○赤坂奨斗・津田勝男・坂巻祥孝・中原波留加 <sup>1)</sup> (鹿児島大農・ <sup>1)</sup> 九大農)
15 15:15	天敵温存植物が捕食性カブリダニ類の生存・繁殖に及ぼす効果 ○吉永英樹・若林美里・大野和朗 (宮崎大農)
16 15:30	バガスを用いたスワルスキーカブリダニの放飼増強法 ○古賀雅人・大野和朗 (宮崎大農)
17 15:45	果菜類のミナミキイロアザミウマに対するシアントラニリプロール粒剤とフルキサメタミド乳剤の定植時同時処理による苗床からの侵入防止対策の検討 ○竹原剛史・伊藤慎一郎・黒木修一 (宮崎総農試)
18	※講演取り止め

## 虫害会場 2

会場：菊南温泉ユウベルホテル（本館 2 階 光の間 B）

講演 12 分（1 鈴 10 分、2 鈴 12 分）、質疑 2 分（終鈴 14 分）

< 午前の部 >

9:30～11:45 ※9:25 事務連絡

講演番号/ 開始時間	タイトル
19 9:30	福岡県の令和元年産普通期水稻におけるトビイロウンカの多発要因 ○城戸寿宏・吉永文浩・森山弘信 (福岡農林試)
20 9:45	佐賀県におけるセジロウンカおよびトビイロウンカの近年の発生動向 ○菖蒲信一郎・善 正二郎 <sup>1)</sup> ・衛藤友紀 <sup>2)</sup> ・口木文孝 <sup>3)</sup> (佐賀農技防セ・ <sup>1)</sup> 佐賀県園芸課・ <sup>2)</sup> 佐賀果樹試・ <sup>3)</sup> 佐賀農業セ)
21 10:00	普通期水稻のトビイロウンカに対する新規育苗箱施用剤トリフルメゾピリムによる防除体系の有効性 ○成富毅誌・井手洋一 (佐賀農業セ)
22 10:15	早期水稻のカメムシ類による斑点米被害と割れ粃発生程度との相関 ○黒木匠子・松浦 明 (宮崎総農試)
23 10:30	佐賀県の半促成長期採りアスパラガスにおけるアザミウマ類の種構成 ○前田貢輝・成富毅誌 <sup>1)</sup> (佐賀農技防セ・ <sup>1)</sup> 佐賀農業セ)
24 10:45	秋まきタマネギにおけるネギアザミウマ被害による貯蔵への影響 ○原本すみれ・井手洋一 (佐賀農業セ)
25 11:00	促成栽培イチゴにおけるアザミウマ類に対するプロヒドロジャスモン液剤の効果 ○永石久美子・寺本 健・吉村友加里・古場直美 (長崎農技セ)
26 11:15	設置高を低くしたホソヘリカメムシとイチモンジカメムシのフェロモントラップはなぜよく捕れるのか ○本田善之・岩本哲弥・遠藤信幸 <sup>1)</sup> ・西野 実 <sup>2)</sup> (山口農林総技セ・ <sup>1)</sup> 農研機構中央農研北陸拠点・ <sup>2)</sup> 三重農研)
27 11:30	チュウゴクナシキジラミの薬剤感受性の低下と対策について ○岩本哲弥 (山口農林総技セ)

----- 昼休み -----

役員会(本館 2 階 富士の間 12:00～13:15)  
総会(本館 3 階 ザ・テラスルーム 13:20～13:50)

<午後の部>

14:00～ 16:15

講演番号/ 開始時間	タイトル
28 14:00	アリモドキコール粒剤を用いたアリモドキゾウムシに対する密度抑圧防除効果 ○野島秀伸・嶽崎 研・楠畑勇祐 (鹿児島県大島支庁)
29 14:15	2019年に日本で発生したツマジロクサヨトウの生態の概要 ○秋月 岳 (農研機構九州沖縄農研)
30 14:30	2019年に日本で発生したツマジロクサヨトウの飛来と国内分散の解析 ○大塚 彰 (農研機構革新研)
31 14:45	2019年に宮崎県で初確認されたツマジロクサヨトウの発生状況と薬剤感受性 ○松浦 明・黒木匠子・寺本 敏・久保知佳・吉留 浩 (宮崎総農試)
32 15:00	ツマジロクサヨトウによるスイートコーンでの加害と幼虫密度～化学的防除それともプッシュ・プル法？ ○大野和朗・中園佳那・阿部 暁・安藤代那・南 斗真 (宮崎大)

## 病害の部

会場：菊南温泉ユウベルホテル本館3階 ザ・テラスルーム)

講演 12 分 (1 鈴 10 分、2 鈴 12 分)、質疑 2 分(終鈴 14 分)

< 午前の部 >

9:30~11:45 ※9:25 事務連絡

講演番号/ 開始時間	タイトル
1 9:30	黒ボク土における転炉スラグと箱粒剤の組みあわせによるイネ稲こうじ病の防除効果と収量品質について ○鈴木智範・山野秀真・下村真一郎 <sup>1)</sup> ・佐藤通浩 (大分農林水産研指農業・ <sup>1)</sup> 大分農林水産研指水田)
2 9:45	ミナトアカザにおけるウリ類退緑黄化ウイルスの局在性 ○久保田健嗣・星野啓佑 <sup>1)</sup> ・池田健太郎 <sup>2)</sup> ・酒井宏 <sup>1)</sup> ・二瓶太紀生 <sup>3)</sup> ・鳥山君彦 <sup>3)</sup> (農研機構中央農研・ <sup>1)</sup> 群馬農技セ・ <sup>2)</sup> 群馬県庁・ <sup>3)</sup> イノベックスサイエンス(株))
3 10:00	低温期の定植によるキャベツ根こぶ病の発病抑制と収量への影響 ○湯田達也・西 八束・尾松直志 (鹿児島農総セ)
4 10:15	タマネギ乾腐病に対するセルトレイ消毒法の検討 ○古田明子・井手洋一 (佐賀農業セ)
5 10:30	べと病感染タマネギ株に形成された卵胞子の総数 ○草場基章・河野里穂 (佐賀大農)
6 10:45	定植前のセル成型トレイ苗への殺菌剤散布によるタマネギべと病の一次感染発病予防：定植前後の体系散布効果の解析から ○田代暢哉・中村吉秀 <sup>1)</sup> ・江頭桃子 <sup>1)</sup> ・中山伸一・宮崎尚子・宮口邦子・浦川綾子・田中義樹 (佐賀上場宮農セ・ <sup>1)</sup> 長崎農林開発セ)
7 11:00	サツマイモ基腐病の罹病種イモおよび茎葉での部位別の菌量と苗伝染について ○西 八束・西岡一也・藤原和樹 <sup>1)</sup> (鹿児島農総セ・ <sup>1)</sup> 農研機構九州沖縄農研)
8 11:15	宮崎県で発生したサツマイモ基腐病菌の発生生態と茎葉散布剤及び伐根による二次伝染の抑制効果 ○臼井真奈美・櫛間義幸 (宮崎総農試)
9 11:30	サトイモ疫病に感染した種イモの発病リスクを下げる管理方法の効果 ―種イモのリスク軽減技術の確立― ○西岡一也・児玉真一郎・西 八束・湯田達也・景山幸二 <sup>1)</sup> (鹿児島農総セ・ <sup>1)</sup> 岐大流域研セ)

----- 昼休み -----

役員会(本館2階 富士の間 12:00~13:15)  
総会(本館3階 ザ・テラスルーム 13:20~13:50)

<午後の部>

14:00～15:15

---

講演番号/ 開始時間	タイトル
10 14:00	薬剤へのソルビタン脂肪酸エステル系展着剤スカッシュの加用がサトイモ疫病の防除効果に与える影響 ○児玉真一朗・湯田達也・西 八束・西岡一也 (鹿児島農総セ)
11 14:15	<i>Alternaria dauci</i> によるコリアンダー褐斑病(仮称)の発生とその宿主および有効薬剤 ○岡本 潤・田中啓二郎 <sup>1)</sup> (大分農林水産研指農業・ <sup>1)</sup> 大分県豊肥振興局)
12 14:30	ビワ果実腐敗を抑制する開花期における防除開始時期の検討 ○小嶺正敬・内川敬介 <sup>1)</sup> (長崎農技セ果樹・ <sup>1)</sup> 長崎県島原振興局)
13 14:45	タバコ微斑モザイクウイルスによるトウガラシのかすり状えそ症の病徴決定因子の解析 ○富高保弘・久保田健嗣 <sup>1)</sup> ・津田新哉 <sup>2)</sup> (農研機構九州沖縄農研・ <sup>1)</sup> 農研機構中央農研・ <sup>2)</sup> 法政大学)
14 15:00	北海道のばれいしょ栽培ほ場に発生するジャガイモ黒あし病の病原細菌の同定と菌種構成 ○藤本岳人・中山尊登・大木健広・青野桂之 <sup>1)</sup> ・牛尾 裕 <sup>2)</sup> ・安岡眞二 <sup>3)</sup> ・小澤崇洋 <sup>4)</sup> ・眞岡哲夫 (農研機構北農研・ <sup>1)</sup> 農研機構種管セ中央・ <sup>2)</sup> 農研機構種管セ十勝・ <sup>3)</sup> 道総研北見農試・ <sup>4)</sup> 十勝農協連)

---